

2010年3月期 第2四半期 決算概要

2009年10月28日
NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 山口 純史
<http://www.necel.com/ir/ja/>

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2010年3月期 第2四半期の決算概要についてご説明させていただきます。

I. 2010年3月期 第2四半期 業績概要

- フリー・キャッシュ・フローが黒字転換
- 半導体売上高は、想定を上回る実績
- 営業損益は改善するも、300ミリ稼働悪化等で想定比未達

II. 2010年3月期 業績見通し

- 下期および通期の業績見通しを下方修正
- 生産ライン統廃合に関する追加施策を決定
(福岡後工程、関西5インチ)

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

まず、2010年3月期第2四半期の業績でございますが、フリーキャッシュフローに関しては大幅に改善し、第2四半期では収支黒字となりました。一方、半導体売上高は想定を若干上回る実績となったものの、営業損益は300ミリラインの稼働悪化などの要因で想定より大幅に悪化いたしました。

次に、2010年3月期の業績見通しでございますが、上期実績が想定より悪化したことに伴い、下期も見直し、通期の業績見通しの数字を大幅に下方修正をいたしました。

足元の事業環境は自動車向けや汎用製品を中心に回復基調にあるものの、SoC分野の売上が期初想定より大幅に減少することにより、300ミリラインの稼働率が引き続き低水準で推移することが予想されます。また、下期の見通しにおいては、特に1-3月期の見通しが未だ不透明であることから、まことに残念ながら、業績見通しを修正する判断に至りました。

下期においては、引き続き固定費削減施策を着実に遂行するとともに、生産ライン統廃合の新たな施策を進めるなど、業績改善に向けた努力を続けてまいります。

I. 2010年3月期 第2四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

それでは、スライドに沿ってご説明してまいります。

(単位:億円)	10/3期				
	1Q, 6/30	2Q, 9/30	上期, 9/30		
	実績	実績	実績	前年同期比	前下期比
売上高	1,020	1,185	2,205	△1,131	+76
半導体売上高	980	1,138	2,118	△1,065	+84
営業損益	△209	△155	△364	△376	+332
税前損益	△208	△167	△375	△375	+518
当期純損益 (当社株主に帰属)	△207	△174	△381	△362	+426
(為替レート)					
1US\$=	98円	95円	97円	8円高	1円安
1ユーロ=	130円	135円	132円	31円高	3円安

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
 注2:「当期純損益(当社株主に帰属)」は、2009年3月期までの「当期純損益」と同じ内容です(米国会計基準の変更によるもの)

NEC ELECTRONICS

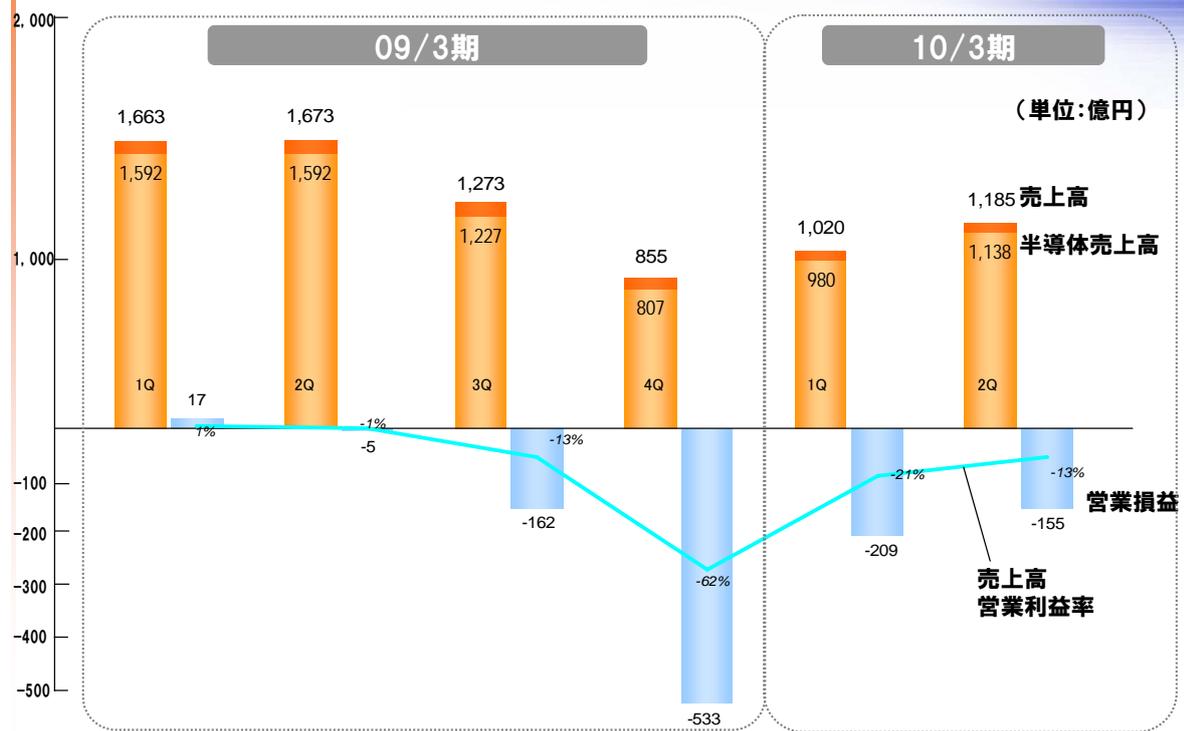
4

まず、上期実績のサマリでございます。

半導体売上高は、前期比との比較では84億円増収の2,118億円となりました。営業損益におきましても、前期比で332億円改善しましたが、364億円の損失となりました。

税引前損益は375億円の損失、当期純損益は381億円の損失となりました。

四半期別業績推移



注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

次に、四半期ごとの業績推移でございますが、第2四半期は売上高・営業損益ともに前四半期比で改善いたしました。売上高の増収に対し、営業損益の改善は想定より限定的となりました。

第2四半期のフリー・キャッシュ・フローは黒字に転換

(単位：億円)	09/3期	10/3期		
	上期	1Q	2Q	上期
営業活動による キャッシュ・フロー	188	△247	107	△140
投資活動による キャッシュ・フロー	△234	△174	△69	△242
フリー・キャッシュ・フロー	△45	△421	38	△382
財務活動による キャッシュ・フロー	△23	+194	+72	+266

6ページはキャッシュ・フローでございます。

第2四半期においては、売上高の増加と利益の改善などにより、前四半期比で営業キャッシュフローが大きく改善し、フリーキャッシュフローは黒字となりました。

下期においても、フリー・キャッシュ・フローの黒字維持を目標に、収支を改善してまいります。

バランスシート

NEC

(単位:億円)	08/9	09/6	09/9
現金および現金同等物	1,580	795	895
受取手形および売掛金	953	660	671
たな卸資産	820	584	545
有形固定資産	2,570	2,417	2,304
その他の資産	297	262	241
総資産	6,220	4,718	4,655
支払手形および買掛金	1,119	720	786
社債および借入金	1,171	1,360	1,437
その他の負債	1,629	1,514	1,509
負債	3,920	3,594	3,732
株主資本	2,248	1,083	885
非支配持分	52	40	38
負債および純資産合計	6,220	4,718	4,655
D/Eレシオ(グロス)	0.52倍	1.26倍	1.62倍
株主資本比率	36%	23%	19%

NEC ELECTRONICS

7

7ページは、バランスシートでございます。

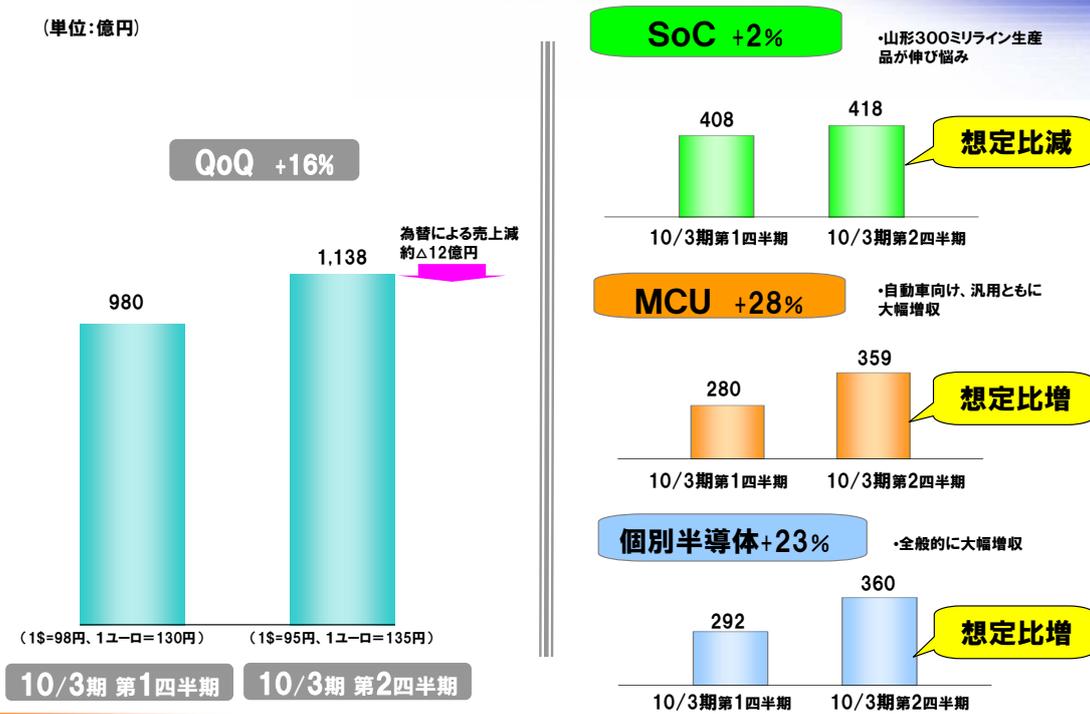
9月末の現金および現金同等物は6月末比で100億円増の895億円となり、手許金の水準としてもボトムを脱したと考えております。

たな卸資産は545億円となり、6月末比で減少いたしました。

また、借入金の増加や当期純損失の計上などにより、DEレシオは1.62倍、株主資本比率は19%となりました。

第2四半期(7-9月期) 半導体売上高(前四半期比) NEC

(単位:億円)



NEC ELECTRONICS

8

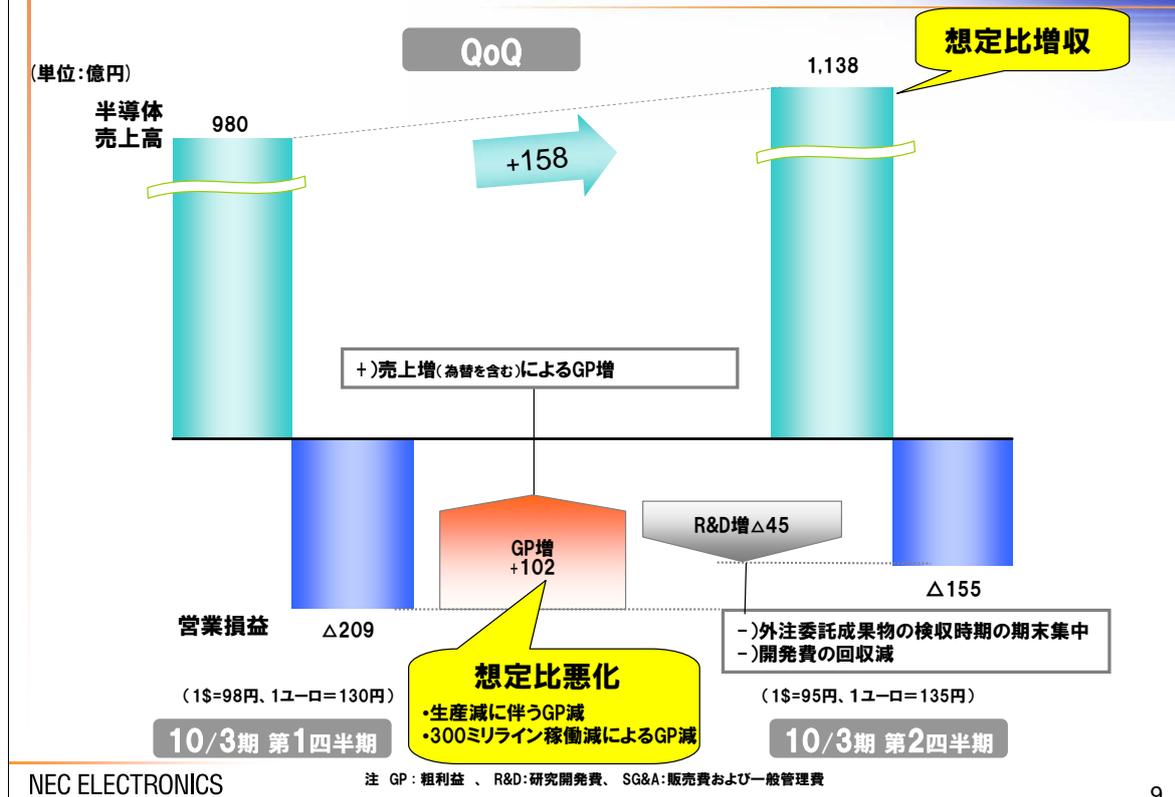
8ページは第2四半期の製品群別の半導体売上高についてお示しております。

前四半期と比較して、全ての製品群で増収となり、半導体売上高全体で16%の増収となりました。

特に自動車向けマイコンや、ディスクリートなどの個別半導体は想定より増収となった一方、SoCは想定比で減収となりました。

第2四半期 営業損益の主な増減要因

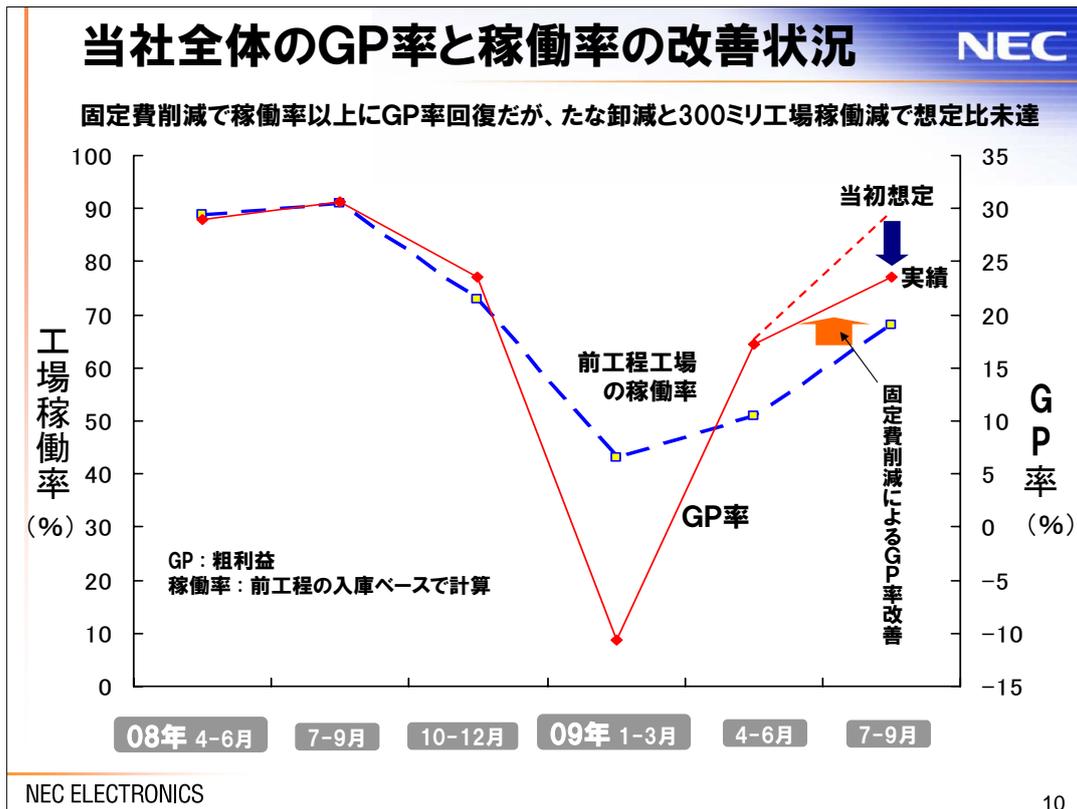
NEC



9ページは、第2四半期の営業損益を前四半期と比較したものです。

この第2四半期は、売上増による利益増があったものの研究開発費が増加し、営業損益は前四半期比で54億円の改善に留まりました。

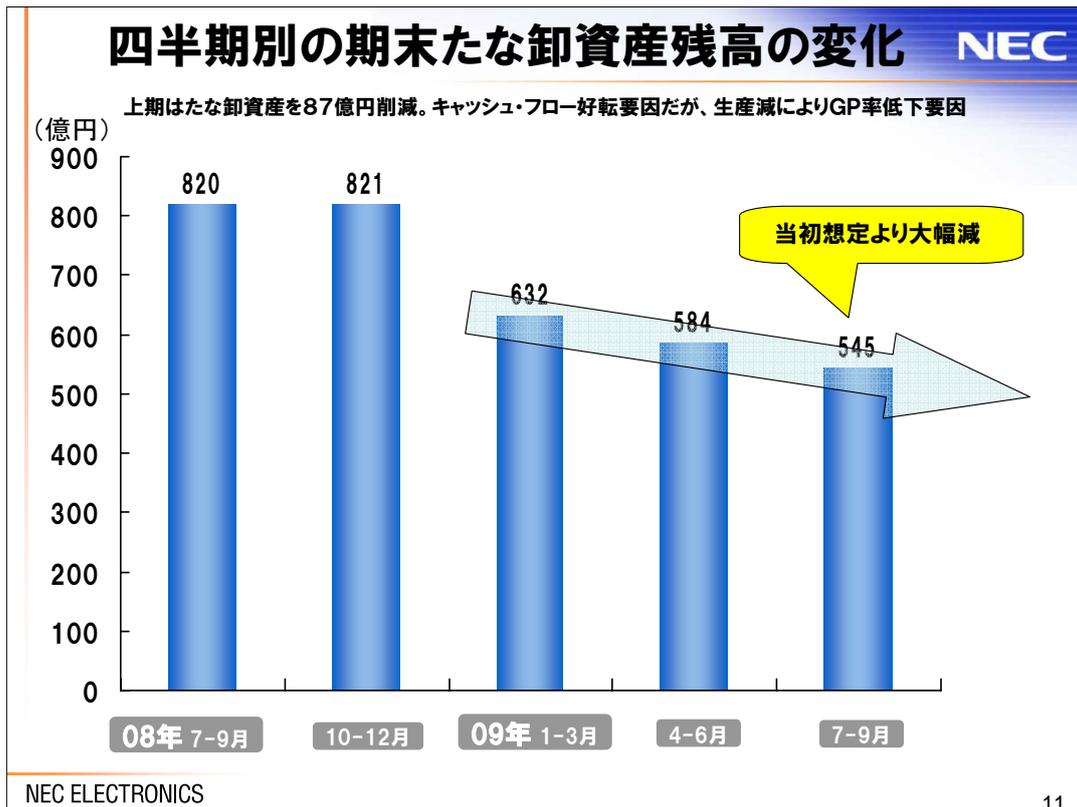
また、前回(7月29日)想定比で、営業損益が約115億円悪化となりました。これは、300ミリラインの稼働が悪化したこと、当初想定より生産が増えなかったことに加え、研究開発費が想定より多く発生したことによるものです。



10ページは、当社のGP率と稼働率の推移をお示したものです。

昨年度下期にGP率と稼働率は大きく悪化いたしました。今年度の固定費削減施策の実行などにより、GP率は稼働率以上に改善しております。

しかし、300ミリ工場稼働率の悪化やたな卸の減少により第2四半期においては当初想定していたGP率を下回る結果となりました。



11ページは、期末たな卸資産残高の推移をお示したものです。

9月末のたな卸資産は3月末と比べて87億円減少いたしました。この結果、キャッシュフローは大きく改善いたしました。が、想定より300ミリラインの稼働が落ちたことなどにより、利益率が悪化いたしました。

I. 2010年3月期 第2四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

続きまして、2010年3月期の業績見通しおよび下期の見通しについてご説明いたします。

下期/通期の業績見通しを下方修正

(単位:億円)	09/3期	10/3期					
	年間	上期		下期		通期	
	実績	実績	期初想定 (5月11日) との差異	今回予想	期初想定 (5月11日) との差異	今回予想	期初想定 (5月11日) との差異
売上高	5,465	2,205	+55	約2,400	△約250	4,600	△200
半導体売上高	5,217	2,118	+68	約2,320	△約230	4,450	△150
営業損益	△684	△364	△114	△約100	△約350	△465	△465
税引前損益	△893	△375	△110	△約160	△約350	△535	△460
当期純損益 (当社株主に帰属)	△826	△381	△111	△約170	△約350	△550	△460
(為替レート)							
1US\$=	101円	97円	2円安	90円	5円高	90円	5円高
1Euro=	146円	132円	7円安	130円	5円安	130円	5円安

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
 注2:「当期純損益(当社株主に帰属)」は、2009年3月期までの「当期純損益」と同じ内容です(米国会計基準の変更によるもの)
 注3:予想値は2009年10月28日現在

NEC ELECTRONICS

13

13ページは本日(10月28日)発表いたしました業績予想修正のサマリです。

足元の事業環境はマイコンやディスクリートを中心に回復基調にあるものの、300ミリラインの稼働率が引き続き低水準で推移することや、下期の見通しにおいては未だ不透明であることから、まことに遺憾ながら、今年度の業績予想を

半導体売上高で▲150億円、

営業損益で▲465億円、

税引前損益、当期純損益でそれぞれ▲460億円

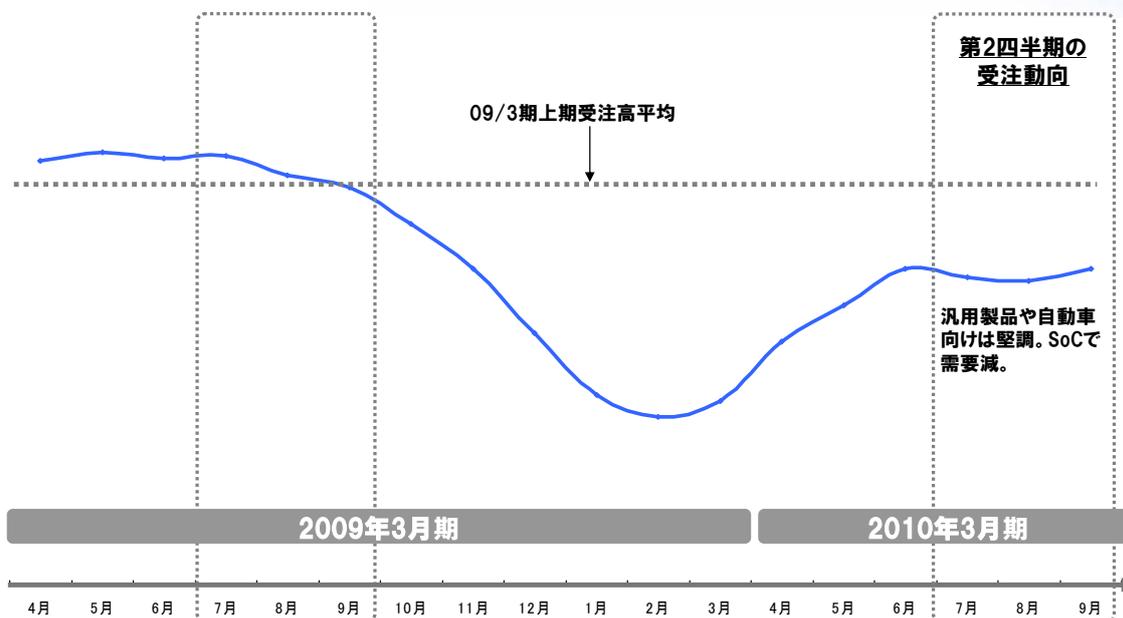
下方修正いたしました。

以下、その内容につき、説明させていただきます。

半導体受注高の推移

NEC

受注（3ヶ月移動平均）



NEC ELECTRONICS

（為替は便宜上受注月の当社売上計上レートを適用）

14

14ページは、当社の半導体受注高の推移を3カ月移動平均でお示したものです。

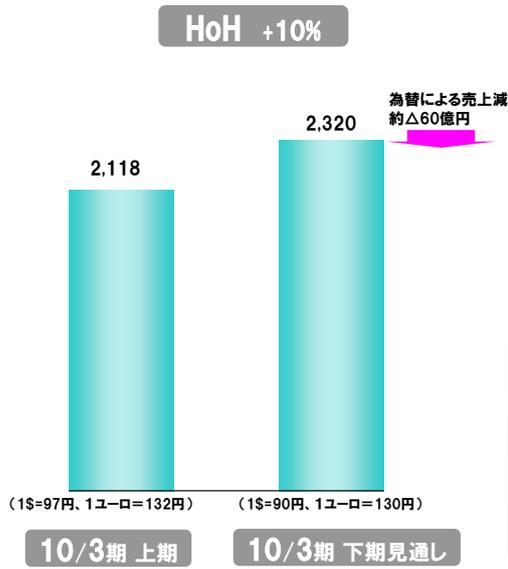
第2四半期の半導体受注高は、一旦は一服感が見えたものの、ディスクリートなどの汎用製品や自動車向け半導体の受注が9月には大きく伸びました。

一方でSOCに関しては、民生関連機器を中心に需要減となりました。

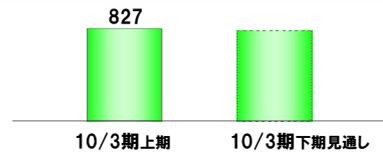
10月の受注においては、9月の単月受注高水準にはおよばないものの、マイコンやディスクリートを中心に堅調に推移しております。

下期半導体売上高の見通し

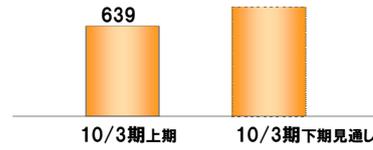
(単位: 億円)



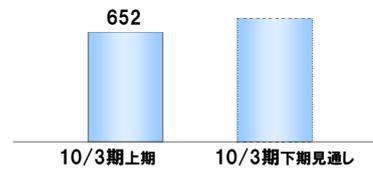
SoC 約△5% 民生機器関連を中心に減収



MCU 約+20% 自動車向け、汎用ともに増収



個別半導体 約+10% 全般的に増収



15ページは下期の製品群別の半導体売上高見通しについてお示ししております。

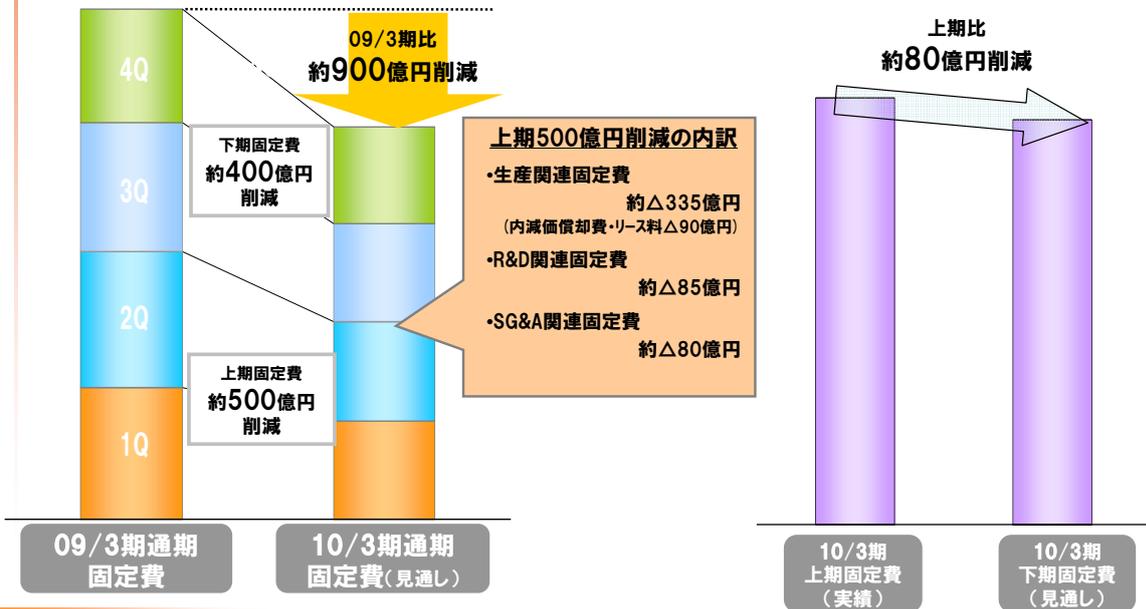
マイコン、個別半導体については、下期にかけても引き続き売上は伸びる見通しです。

一方、SoCに関しては、民生機器関連を中心に減収を見込んでおります。

900億円固定費削減の進捗状況

上期は前年比約500億円の削減実現

下期は上期比、更に80億削減、前年比400億円削減



NEC ELECTRONICS

注 R&D: 研究開発費、SG&A: 販売費および一般管理費

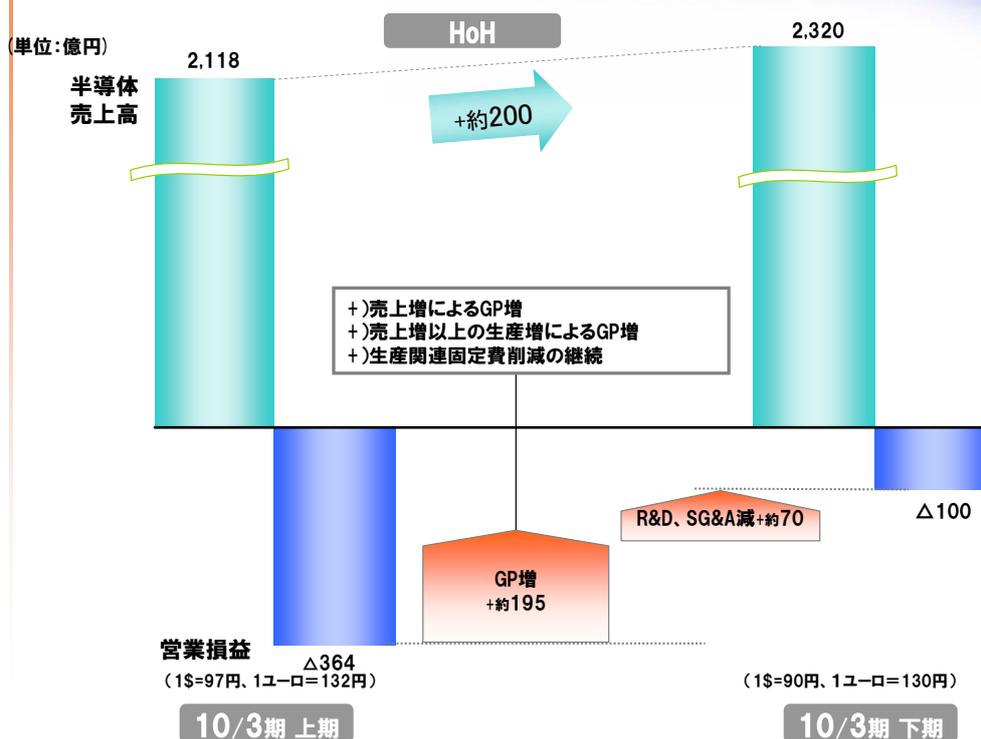
16

次に、固定費削減の進捗をご説明いたします。

上期においては、生産関連固定費を中心に、前年同期比で約500億円削減いたしました。下期においては前年同期比で約400億円の固定費削減を実行し、年間の固定費削減目標を着実に遂行いたします。

下期においては、研究開発費や一般管理費を中心に上期比で約80億円削減する見込みです。

下期営業損益見通しの主な増減要因



NEC ELECTRONICS

注 GP: 粗利益、R&D: 研究開発費、SG&A: 販売費および一般管理費

17

17ページは、下期の営業損益を上期と比較したものです。

下期においては、売上拡大における利益増に加え、来年度以降の受注予測も踏まえ、売上増以上の生産増をおこなうことにより工場稼働益が見込まれます。また、固定費を上期比で約80億円削減することから、営業損益は265億円の改善を見込んでおります。

下期の取り組み

NEC

- **下期もフリー・キャッシュ・フロー改善を継続**
 - 下期のたな卸資産は増加する見込みだが、売上増と投資キャッシュ・フロー抑制により収支黒字化を目指す
- **更なる売上拡大を目指す**
 - SoC製品の売上拡大により、現状見通し以上の売上を目指す。
 - 受注好調なマイコン製品の増産による売上拡大
- **増産による粗利益率の向上を実現**
 - 40ナノ製品の早期量産拡大による300ミリラインの稼働増（300ミリは年内に稼働好転見込）
 - 需要の強いマイコン・ディスクリートの増産と市場拡大に向けたたな卸積み増し
- **固定費削減の遂行**
 - 引き続き年間固定費削減900億円を必達
- **構造改革の更なる推進**
 - 従来の生産ライン統廃合計画を完遂
九州6インチ、米ローズビル6インチを10年3月に閉鎖
 - 新規に生産ライン統廃合計画を決定
福岡工場(後工程ライン)を11年9月までに閉鎖し、継続生産品目は大分工場等へ移す
関西5インチラインを12年3月までに閉鎖

NEC ELECTRONICS

18

業績改善に向けた下期の取り組みを18ページに取りまとめました。

まず、下期においては生産稼働を向上させ、たな卸資産を増やす見込みですが、フリーキャッシュフローにおいても売上高の拡大と投資キャッシュフローを抑制することにより、収支黒字化を目標といたします。

また、SoC製品の売上拡大や好調なマイコン、ディスクリートの売上拡大により、現状見通し以上の売上達成を目指します。

第2四半期の損益悪化要因であった粗利益率の低下については、40ナノ製品の早期量産による300ミリラインの稼働改善や需要の強いマイコン、ディスクリートの生産拡大により粗利益率の改善を図ります。

固定費においては、すでにご説明しましたとおり、上期比で80億円削減し、年間900億円の削減を実現いたします。

構造改革の更なる推進といたしましては、生産ライン統廃合の新規施策として、後工程ラインを持つ福岡工場の閉鎖と前工程ラインである関西5インチラインの閉鎖を決定いたしました。今後もコスト競争力の強化に向けて、生産ラインの再編を着実に進めてまいります。

成長への取り組み — 断トツシェア製品の育成

NEC

先端プロセスでの売上拡大

- 40nm 製品群 デジタルカメラ・DTV・プリンタ向けLSI
- eDRAM-ASIC 画像処理LSI

エコ市場での売上拡大

- スマートグリッド 電力メーター用マイコン、RF半導体
- 省エネ家電 インバータ制御マイコン、LEDドライバ
- ハイブリッドカー モーター・電源制御マイコン、光半導体

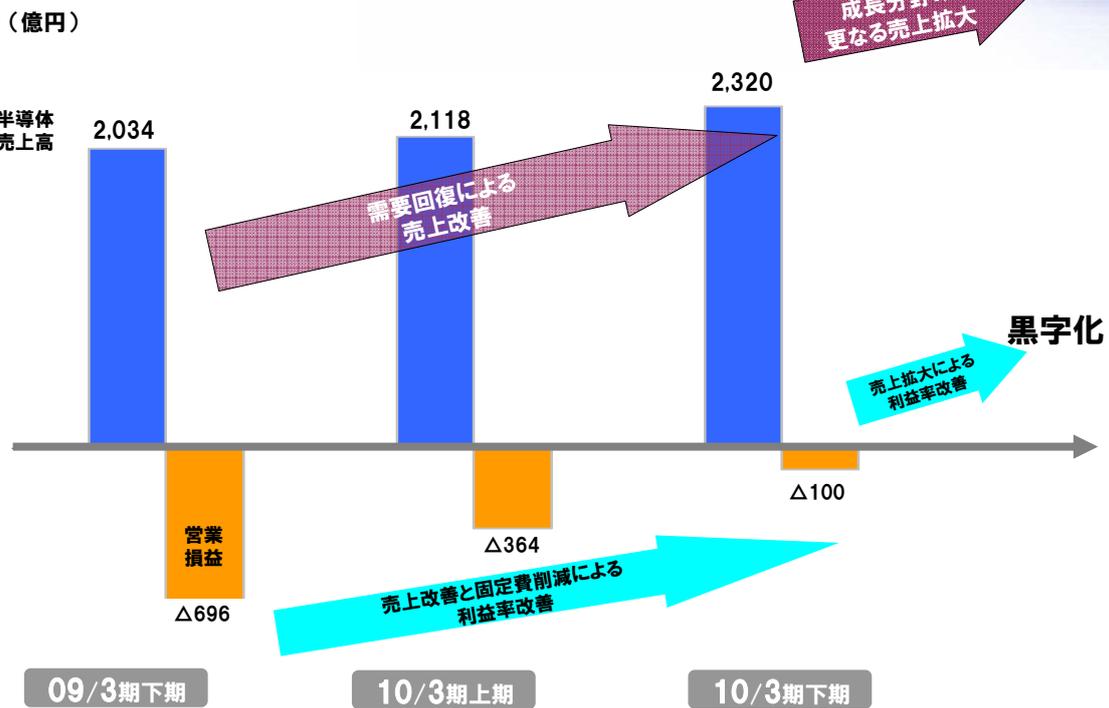
新興市場での売上拡大

- ローコストカー ボディマイコン、ダッシュボードマイコン
- 地デジチューナー 地デジEMMA（バリュー TVにも採用）
- 汎用マイコン・ディスプレイ

Energy Conscious = Ultimate Low Power™

業績改善に向けて

NEC



NEC ELECTRONICS

20

次に、今後の業績改善と成長への展望についてお話しいたします。

今年度に関しては、残念ながら当初目標であった通期での営業黒字化の達成は断念いたしました。当社の業績は確実に改善に向かっております。マイコン、個別半導体においては引き続き強い需要が続いており、足元も好調に推移しております。SoCに関しましては、想定より需要が減少したものの、この下期がボトムであり、来年度に向けた活発な受注活動が行なわれております。

また、今年度は900億円の固定費削減施策を行うと共に、生産ライン再編における新たな施策を決定いたしました。

来年度以降の業績改善に向けて着実に活動してまいります。

まとめ

NEC

- マイコンと汎用品の需要が大きく回復。
固定費は計画通り着実に削減。
- しかしながら、開発サイクルの谷間による
SoC売上の不振とSoC主力工場の稼働悪化により、
下期および通期の業績見通しを下方修正。

下期は、圧倒的ローパワーを実現する最新の
40nm製品と、エコ市場、新興市場向けの
売上拡大で、今後の業績改善を実現。

NEC ELECTRONICS

21

最後に本日のまとめでございます。

先ほどもお話ししましたとおり、マイコンやディスクリートなどの汎用製品は需要が大きく回復しております。更に固定費削減に関しましても、計画通り着実に遂行してまいります。

しかしながら、開発サイクルの谷間によるSoC売上の不振とSoC主力工場である山形300ミリラインの稼働悪化により、下期および通期の業績見通しを下方修正いたしました。

下期においては、圧倒的なローパワーを実現する最新の40ナノ製品の量産開始および受注拡大、またエコ市場や新興市場向けの売上拡大を推進し、今後の業績改善を実現いたします。

NEC

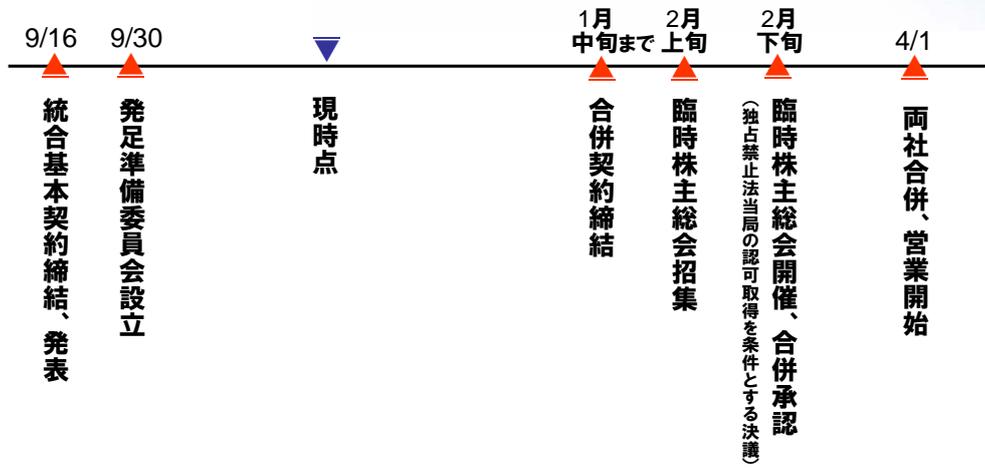
NEC Electronics Corporation

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

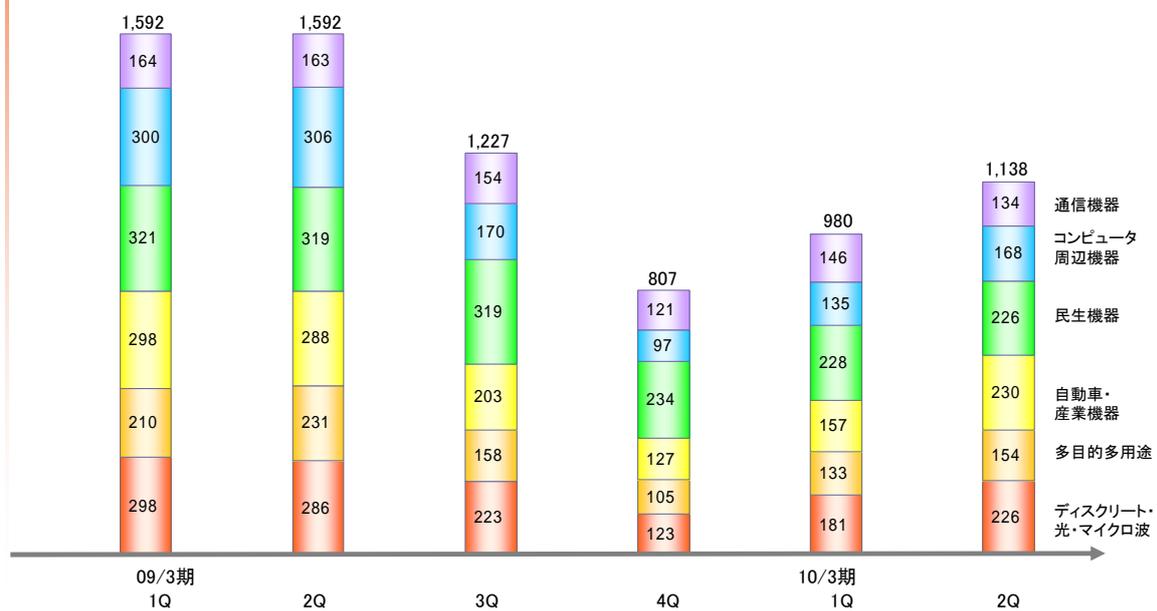
**2010年3月期第2四半期の決算概要のご説明は以上でございます。
本日は有難うございました。**

参考：ルネサスとの統合スケジュール



参考：分野別 半導体売上高

(単位:億円)



主な営業費用と設備投資の推移

